

一〇二六年一月一四日

立春の鳶高らかに声を上ぐ  
春立つや水琴窟の樂もまた  
春立ちて水辺のベンチ賑はひぬ  
春立つや飛行機雲の太うして  
子らはみな跳ねて豆待つ節分会  
立春の光彈けて明石の門  
節分の法螺鳴り渡る奈良の寺  
立春の潮の香纏ひ戻りけり  
玄関の靴の中より年の豆  
うかとして切り分けしたる恵方巻

わかば

えいじ

むべ

きりん

康子

わかば

こすもす

花茗荷

勉聖

うつぎ

若鮎句会秀句・みのる選・二〇二六年一月一五日